

第2回全国高等学校情報教育研究大会

石川県立金沢二水高等学校教諭 鹿野 利春

1. はじめに

教科「情報」は平成15年から始まった若い教科である。すべての都道府県に教科「情報」の研究会有るわけでもなく、数学や理科のような全国大会も一昨年までは開催されていなかった。

県の研究会があり、ブロック大会や全国大会が開催され、日頃の実践や研究をお互いに持ち寄り、交流を深める。そうすることで情報交換が行われ、人的ネットワークが広がり、それぞれの教諭の教科指導力が向上する。他教科では完成されているシステムが、教科「情報」でも機能するようになったことを喜びたい。

2. 第1回大会について

第1回大会は神奈川県武蔵工業大学世田谷キャンパス（現東京都市大学）で平成20年8月22日（金）に開催され、300名以上の参加者があった。

大会の主体は、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、静岡県で構成される関東都県高等学校情報教育研究会であったが、沖縄県からの発表もあるなど、当初から全国的な広がりを見せていた。

3. 第2回大会について

第2回大会は茨城県の筑波学院大学で平成21年8月24日（月）に開催された。

開催主体は第1回大会と変わらないが、参加者は若干減って265名となった。しかし、関東圏以外からの参加者は増え、その範囲は北海道から沖縄県までに広がった。

4. 大会の内容について

大会は次の3つの要素から構成されている。

- (1) 基調講演
- (2) 分科会
- (3) ポスターセッション

分科会やポスターセッションについては、私も含めて自発的に個人で申込み、発表を行っている。

(1) 基調講演

基調講演は、文部科学省初等中等教育局視学官の永井克昇氏によって行われた。氏は、今回の学習指導要領及び解説を文部科学省側の担当として、主体的にまとめられた方である（写真1）。講演では詳しく触れられなかったが、今回の学習指導要領改訂にあたっては、教科「情報」を選択教科にという全国高等学校長協会からの要望や、情報モラルの指導、中学との学習内容の整合性など多くの課題があった。これに対して、教科「情報」を必須教科として残し、その内容を確保する作業は、険しい道のりであったと推察される。

今回の講演の内容は以下の4点に集約される。

- ・学習指導要領の理念と教科「情報」の関係
- ・人材育成と裾野の広がり
- ・中学校の技術・家庭の内容
- ・これからの教科「情報」

学習指導要領の理念との関連では、「知識基盤社会」の時代と「生きる力」ということで、

- ・課題を見いだし解決する力
- ・知識・技能のための生涯にわたる学習
- ・他者や社会、自然や環境と共に生きることが大切であり、そのため



写真1 永井克昇氏

に必要なのが「生きる力」＝情報活用能力であることを述べられた。

上記の情報活用能力は国民必須の素養であり、普通教科「情報」はこれを学ぶものであって裾野の広がりを目指している。専門教科「情報」は、情報産業を支え、その形成に寄与する人材の育成を目指していると教科の目的を明確に示された。

中学校の技術・家庭の内容と、これからの教科「情報」については、教育課程伝達集会等で伝達される内容と重なるので、ここでは省略する。

基調講演で特筆すべき点として、聴覚障害者のためにボランティアによる要約筆記が行われたことがあげられる。講演の内容をリアルタイムでパソコンに打ち込み、プロジェクタに投影するもので、視覚障害者だけでなく、一般参加者からも好評であった。教科「情報」の大会らしく、ICTを活かした来場者にやさしい配慮といえる（写真2）。

(2) 分科会

分科会は6つ開催され、それぞれに4人が発表する充実したものであった。そのうち印象に残った発表、意義深い発表を紹介する。

専門学科の先生と生徒の発表

今大会には、情報理数科という専門学科を持つ千葉県柏の葉高等学校の教諭による発表があり、専門教科の実施状況、生徒の学習内容について理解を深めることができた。また、その実践発表の中で、情報理数科の生徒が自らの課題研究の内容を発表していたことが印象深かった。



写真2 プロジェクタにより提示される講演の要約

各都道府県の取り組みの紹介

神奈川県高等学校教育研究会情報部会のつくった情報科テストと実施結果の報告、東京都のICT計画と使用感、大阪私学教育研究会の取り組みなどの発表があった。こういう発表や成果の交流は全国大会ならではのものである。

情報の科学的理解について

平成25年度から実施される科目「情報の科学」を意識して、情報の科学的理解についての発表が何本もあった。小学校、中学校でどのように情報の科学的理解を学ぶかについての発表、情報の科学的理解を促す導入教材についての発表、簡単な言語を用いた誰にでもできるプログラミング教育についての発表などが行われた。いずれも、情報の授業をする上で参考になり、明日からの授業にすぐ活かすことができるものであった。

情報モラル等について

情報モラル等については、アンケート調査などで現状把握を行う研究、主体的な情報モラルの育成を目指した実践、知財教育からの視点での発表など、様々な角度からの発表が行われた。

その他

「情報の教科書ここが変」と題したモデル化とシミュレーションについての改善案の発表や、体系的な実習を考えたもの、情報デザインの立場からアプローチしたものなどアイディアあふれる発表があった。また、参加者を巻き込んだワークショップ形式のものも行われた。紹介しきれないものについては、分科会発表者リストをご覧いただきたい（次ページ表1）。

(3) ポスターセッションについて

ポスターセッションは、ポスターだけでなく実物も提示され、企業展示とともに大いに盛り上がった（写真3）。今回は、茨城県内の若手教師を中心に



写真3 気球（マジカルスプーン）

多数のポスターセッション発表者があったことを特筆しておきたい。

発表された先生には、発表を通じた交流、県外の先生方から得られる刺激など、発表者しか得られない大きな収穫があったことと思う。

5. 大会開催の効果

教科「情報」について全国の高校教諭が参加し、交流を深める機会はそう多くなかった。この大会に参加することで、お互いを知り、新たな実践やアイデアを学び、明日の授業を良いものにすることができる。また、参加した先生方がそれぞれの都道府県へ戻って大会の内容を伝えることにより、大会の効果は多くの先生方に伝わる。これは、それぞれの県の情報研究会が活発であれば、より大きな成果が期待できる。

今後期待される効果としては、教科「情報」の問題点を共有し、それを話し合う中で解決策を模索したり、行政に働きかけたりすることがあげら

れる。大会声明などを発表し、ひとつの集団として力を発揮することも求められているように思う。

6. 来年度に向けて

第1回は神奈川県で、第2回は茨城県で、両方とも関東都県の研究会と共催で開催された。昨年度の神奈川県、今年度の茨城県の先生方、大会の開催を決断された関東の先生方に敬意を表したい。

第3回は石川県の金沢工業大学で単独の全国大会として開催することが決定している。

この大会では、情報科を担当する教員の現状や、情報科の教員採用についての分科会を持つ予定をしている。日程も従来とは異なり、1泊2日で計画している。いろいろな意味で新しい試みがある大会になる。全国の先生方を気持ちよく迎え、実りのある大会を開催し、日本の情報教育に貢献したいと思う。次ページに来年度の開催要項を掲載する。

表1 分科会発表者リスト

発表者一覧	所属	発表テーマ
五十嵐誠	神奈川・横浜清陵総合	Squeakを使ったプログラミング教育の導入
山下裕司	山口・岩国	体系的な実習実践
赤松正人	兵庫・御影	教科情報の授業実践と高大連携の可能性
野部緑	大阪・桃谷	絵描き歌を利用した情報伝達の授業
諏訪間雅行	神奈川・湘南台	情報デザインの手法を取り入れた情報の授業
若林庸夫	神奈川・海洋科学	情報デザインの要素を取り入れた教材開発と実践
磯崎喜則	東京・日本学園	平成25年度に向けて高校情報教育の検討～コンピュータ教育から情報デザインへ～
阿南統久	茨城・つくば工科	第2回研究大会のサイン計画について
石井徳人	神奈川・横須賀総合	神奈川県高等学校教科研究会情報部会テスト委員会情報科テスト結果報告
岩本太一	埼玉・戸田翔陽	情報モラルに関するアンケート調査
坂本峰紹	埼玉・新座柳瀬	小・中の学習内容からみる「情報の科学的な理解」
佐藤義弘	東京・東大和	CECの調査から見る全国の「情報科事情」
森下博正	静岡・浜松城北工業	情報の科学的な理解を促す導入の教材と考察
世良清	三重・四日市商業	情報教育と知財教育の交差点
杉山隆弘	静岡・清水東	情報の教科書ここが変!?
鹿野利春	石川・金沢二水	新学習指導要領における情報教育～中学校との接続～
西澤廣人	埼玉・所沢	ショートムービーパワー
大橋真也	千葉・東葛飾	主体的な情報モラルの育成について
清水紀行	東京・小金井北	東京都ICT計画と使用感
谷川佳隆	千葉・船橋豊富	高校生が活躍するパソコン教室
滑川敬章	千葉・柏の葉	専門学校「情報科」と専門教科「情報」
滑川敬章	千葉・柏の葉	柏の葉高等学校「情報理数科」生徒発表
米田謙三	大阪・羽衣学園	大阪私学教育情報化研究会の取り組み
福島毅	千葉・東葛飾	ワールドカフェを使った情報共有とアイデア創出

第3回 全国高等学校情報教育研究大会

全国高等学校情報教育研究会

会長 下條 隆史

(東京都立東村山西高等学校長)

石川県高等学校教育研究会情報部会

会長 今井 和愛

(石川県立内灘高等学校長)

- 1 目 的 全国の情報教育関係者が一同に会し、講演、研究発表、協議、情報交換を通して、これからの教科「情報」の在り方や問題解決の方策を探り、実践的指導力の向上を目指す。
- 2 日 時 平成22年 8月20日（金）13:00 ～ 8月21日（土）13:00
- 3 会 場 金沢工業大学 〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇が丘7-1
TEL 076-248-1100 <http://www.kanazawa-it.ac.jp/>
- 4 内 容 講演（演題及び講師は調整中）
分科会：高等学校の実践発表等（研究発表・協議会）
ポスターセッション
- 5 参加資格 全国の小中高等学校の情報教育関係者、研究者、及び大学生・大学院生等
- 6 申込方法 全国高等学校情報教育研究会Webサイトより申し込み（H22年4月中旬から受付）
<http://www.zenkojoken.jp>
- 7 申込期間 分科会発表者 5月末日要旨提出、6月末日原稿提出
ポスターセッション発表者 6月末日要旨提出
参加者 7月末日
- 8 主催等（主催）全国高等学校情報教育研究会
（予定）（共催）石川県高等学校教育研究会情報部会 日本情報科教育学会 近畿・北陸支部
（後援）文部科学省 石川県教育委員会
（協賛）関東都県高等学校情報教育研究会
青森県高等学校情報教育研究会 宮城県高等学校情報科教育研究会
茨城県高等学校教育研究会情報部 埼玉県高等学校情報教育研究会
千葉県高等学校教育研究会情報教育部会 東京都高等学校情報教育研究会
神奈川県高等学校教科研究会情報部会 静岡県高等学校教科「情報」教育研究会
山梨県高等学校教育研究会情報科部会 三重県高等学校情報教育研究会
大阪府高等学校情報教育研究会 大阪私学教育情報化研究会
山口県高等学校教育研究会情報部会 沖縄県高等学校「情報」教育研究会
横浜市立高等学校情報教育研究会 全国専門学科「情報科」高等学校長会
- 9 参加費 1,000円（資料代含む）
- 10 問い合わせ先 第3回全国高等学校情報教育研究大会実行委員会
事務局 〒921-8117 石川県金沢市緑が丘20-15
石川県立金沢二水高等学校 鹿野利春
Tel 076-241-3167 Fax 076-244-4555
e-mail:kanot101@m2.ishikawa-c.ed.jp